



浮孔小学校教諭
森戸 徹

引率教諭より

リズモー市で過ごした2週間は、学生と私にたくさんの学ぶ機会と体験と思い出ができたかけがえない時間でした。だからこそ、温かく迎えてくれたホストファミリーや市役所の人たちとの最後のお別れがとても惜しかったです。

リズモー市は、とても自然に恵まれていてコアラが好きなユーカリの木や、マカダミアの木がたくさんあります。季節は冬でしたが、野生のコアラやカモノハシを見つけることができました。また、街から少し離れると至る所に農場があり、牛や羊が気持ちよく草を食べている風景が広がっていました。



リズモー市長（中央）表敬訪問



楽しいバンブーイングリッシュ



姉妹都市締結 60 周年オンライン会議の様子
(リズモー派遣時のさよならパーティにて)



岡本 マリア クリスティーナ先生

大和高田市立高田商業高校

大和高田市内中学校・小学校・幼稚園

私たちは派遣学生たちからリズモーでの経験について、たくさんの良い話を聞きました。学生たちは、とても楽しく過ごし、素晴らしいことを学びました。彼らを暖かく歓迎してくださり、ありがとうございました。

学生たちの話は、バンブーイングリッシュに参加している子どもたちにとって刺激となります。子どもたちは英語をもっと学びたいと思うようになり、もしかすると、いつかリズモーを訪れるきっかけになるかもしれません。

バンブーイングリッシュでは、楽しい方法で英語を学ぶことに努めています。

ここ日本でお会いできることを楽しみにしています。私たちと共に、さまざまなことに挑戦し学びましょう。



The Bamboo Shoots

～地方季刊新聞～
大和高田・リズモー都市友好協会 発行
2023 年 春・夏号

No.181

連絡先：大和高田・リズモー都市友好協会

TEL：0745-22-1101

<https://www.city.yamatotakada.nara.jp/shisei/kokusai/lismore/>

このバンブーシューツ(筍)が、大和高田市とリズモー市の情報交換に役立つ立派な竹に成長しますように

姉妹都市リズモー市との交換学生事業が再開！！

新型コロナウイルス感染症の世界的大流行の影響により中止していた交換学生事業が4年ぶりに再開しました。5名の学生が随行する浮孔小学校の森戸教諭とともに、7月26日から8月8日にかけて、オーストラリア・リズモー市を訪れました。

リズモーへ出発する前に抱負を聞いてみました。



福西 右納

2週間ホームステイをすることがとても楽しみです。英語で多くの方々と積極的にコミュニケーションをとりたいです。また、大和高田市の代表として大和高田市の魅力を伝え、リズモー市についても学びたいです。派遣を通じて新しい学びや様々な経験を得たいです。恥ずかしがらずに思い切って行動しようと思います。



宗像 華穂

リズモー市への派遣学生として応募したのは、派遣先で実際の生活や文化を学び、大和高田市の魅力や日本の文化を伝えたいと思ったからです。派遣学生としてリズモー市を訪れることが決まった今、日本とオーストラリアの文化や生活の違いをたくさんを見つけることを目標にしています。



石井 美玲

小学生の頃から、リズモー市の人と関わる機会が多く、交換学生が長年の夢でした。今年は、待望の交換学生事業が再開され、大学受験をひかえた身での参加は躊躇しましたが姉妹都市60周年という節目に参加でき、光栄に思います。両市の歴史をより深く学び、伝えたいと思っています。また、友好協会主催のバンブーイングリッシュ1期生として学んだ経験を基に、今バンブーイングリッシュで学ぶ幼児、小学生の手本になれるよう頑張りたいです。



丸上 結

言葉の通じにくい見知らぬ土地で自分を人として成長させたいと思い派遣学生へ志願しました。この機会を活かすためリズモー市へ訪問した際には大和高田市の良さを伝えて互いに異文化を共有したいです。そして帰国した際に、身をもって感じたリズモーの良さをより多くの人々に発信したいです。



東 大晴

今回リズモー派遣学生に選んでいただいたことにとても感謝しています。小さい頃からずっと海外に行きたいと思っていたので、今とてもワクワクしています。リズモー市に行って、たくさんの文化を学び、たくさんの人々と交流を楽しみ、たくさんの貴重な経験をしたいと思います。



浮孔小学校教諭
森戸 徹

社会科の授業内容を考える際に、大和高田市とリズモー市が姉妹都市として長年交流していたことを知りました。今年度、4年ぶりに交換学生事業を再開すると聞き、両都市の交流を深めるために引率教諭として共に学びたいと考えました。また、学生として参加される皆さんにとって、楽しく貴重な体験となるよう全力でサポートしていきたいと思っています。

わたしたちが体験

印象に残ったエピソード

オーストラリアで印象に残ったことは、できるだけ資源を使わずに、自然を最大限に活用する生活をしていたところです。例えば、砂浜を歩いて足に砂が付いたとき、私たちはティッシュなどを使って砂を取ろうとしました。ですが、リズモーの子どもたちは、芝生に足をこすりつけて砂を取っていました。また、草花に対する知識があり、料理や薬草に使用していたことに驚きました。

このように、現地の人たちは、自然を活かした生活を送っていることを実感しました。



ルリジサの花



ちなみに・・・

リズモーの人々は、裸足で過ごすことが多いです。家から近所に出るくらいであれば、わざわざ靴をはきません。

また、ビーチに行く時は、浜辺に行くまでのコンクリートの道を裸足で歩く人が多かったのですが、私たちは痛くて歩けなかったです。



振る舞ったもの・日本料理



わらびもちも家族みんなに好評でした！



カレーは8人前作ったのに5人でペロリ♡



他にも、お好み焼きを焼いたり、日本のお菓子などをお土産にしました。

道路標識の違い



リズモー市には、信号が少なく、この標識にそってみんなが運転していました。



ウォンバットやコアラなど、日本では見かけない動物の標識がありました。



「歩行者に道を譲る」という意味です。

リズモーでの日常



オーストラリアでは、普段1日5食で、10時ごろにモーニングティーと、夕食の前にアフタヌーンティーがあります。ディナーはワンプレート形式が多かったです。

リズモー市では、市役所職員や、各ホストファミリーからたくさんの食事を用意していただきました。滞在中はお腹が空く間もないほど私たちをもてなしてくれました。

〈〈派遣学生事業を通して〉〉

オーストラリアでの生活は日本と異なった部分が多くてすごく新鮮でした。

毎日が初めての経験ばかりで驚き、様々な考え方やライフスタイルを知ることができて刺激を受けました。

現地ではホストファミリーや市役所の職員をはじめとした人たちにたくさん助けられ、毎日があっという間に過ぎていきました。

この貴重な経験を忘れずに今後の生活にも活かしていきたいです。

